

広くいえばディベート (debate) とは、「違う考えを持つ相手 (例えば賛成側と反対側) と議論すること」を言います (松本茂・鈴木健・青沼智著『英語ディベート 理論と実践』p. 5)
#ディベート (debate) は外来語なので、正しい意味は英英辞典を調べることで分かるはず。

ですがここで、私達が共に取り組みたいディベートは「**競技ディベート**」に分類されます。

まずは、下記にある“ディベートの**定義を踏まえた競技**”が展開されていることを、強く認識して下さい (定義に合っていないものは、広義のディベートか、“ディベートではない”議論と理解してください)。

★ ディベートには、定義があります。
以下の4つの要素があることを理解してください。

- (1) a: _____ に対して
- (2) b: _____ と c: _____ に分かれ
- (3) 一定の d: _____ に従って議論し
- (4) 最後に、e: _____ によって勝敗が下される f: _____ です。

※これに「公共の場で」という条件を加えて定義と紹介しているものもあります。

(1)に関して: 世の中では、議論が進行すると、話題が転々とするケースがままあります。

しかし競技ディベートでは、“**一つ一つの議論を順番に決着づける**”ことを**重要視**し、まずは与えられた論題に焦点を絞って議論をします。

(2)に関して: 2段目でも説明した通り、必ず肯定 (賛成) か否定 (反対) かの判断をし、選択します。

ディベートが長けた方々によって、肯定・否定にも一理ある論題が選ばれています (後述) ので、**安心して、勇気を出して、責任をもって、判断して下さい。**

(3)に関して: 例えば現実の世界では、強い立場の人の意見が通り、弱い立場の人は発言すらしにくい、ということがままあります。しかしディベートは、肯定側・否定側の双方に、同じだけスピーチの時間が与えられています。つまりルールにより、発言できることが保障されている (ディベーターはルールに守られている) のです。よって、自分の時間の時には**安心してスピーチして下さい!**

ルールがあるということはフリートークの議論とは質が全く異なります。

例えば、**与えられたスピーチ時間が限定されている、などの決まり** (後述) があります。

中高生は大抵、全国教室ディベート連盟が策定したルールに基づいたディベートをする機会が多いと思いますので、一度は目を通して下さい。

(ルールを知らなくても競技はできますが、恐らく、何度も困ったことに直面します。1塁と3塁の違いも分からずに野球をしたり、オフサイドを知らないでサッカーに交じったりするようなものです。)

(4)に関して: ディベートは「相手を言い負かし、説き伏せ、相手が何も言えなくなると勝ち」と考えられがちですが、全くの誤解です。ディベートは**ジャッジという第三者を納得させた方が勝ち**です。この、**ジャッジを納得させることが実に難しい**、ということを**認識することが大切**です。

私たちは日ごろ、日本語を多く話しているにもかかわらず、私たちの思った通りには聞き手に納得してもらえないケースがままあるのです。

視点も予備知識も様々なジャッジがいる中で、過半数のジャッジをいかに説得し、納得してもらおうかということを、今後詳しく解説します。